

## 目 次

- ・ 子どものこころの発達のこと ..... 1
- ・ 「電子資料館システムの活用 その意義と問題点」 ..... 3
- ・ 今すぐ役立つサイトをご紹介します ..... 4
- ・ 2005年新規購入・中止雑誌等のお知らせ ..... 5
- ・ 講演会報告 ..... 8
- ・ 平成17年度浜松医科大学附属図書館開館予定日 ..... 8

## 子どものこころの発達のこと

精神神経医学 教授 森 則 夫

「発達障害者支援法案」が昨年12月に参議院本会議を満場一致で通過しました。発達障害とは、脳の成熟に関係している心理的発達の遅れを言います。その発症時期は幼児期です。その代表が自閉症です。自閉症は、学齢期の子ども千人にひとりの割合で発症すると推計されています。男子は女子よりも4、5倍高い割合で発症しますが、その理由は分かっていません。3つの基本症状があります。第1は、相互反応の障害です。具体的には、周囲からの働きかけに反応しない、視線を合わせない、独り遊びを好む、相手を無視するなどの症状です。第2は、意志伝達を行うための言語発達の障害です。言葉が増えない、人の言葉に反応せずラジオやテレビなどの機械的音声に反応する、相手から言われたことをおうむ返しに言う(反響言語)などです。第3は、限定された興味や行動の繰り返しで、例えば、必ず同じ道を通る、同じ物で遊ぶといった症状です。

自閉症はレインマンという映画をみると分かります。アカデミー賞を獲った1988年のアメリカ映画です。自閉症の兄レイモンドをダスティン・ホフマンが、弟チャーリーをトム・クルーズが演じています。中古車のディーラーをしているチャーリーは、急逝した父が匿名の人物に全遺産を与えた事実を知りません。チャーリーはその匿名の人物を捜し出します。重度の自閉症で施設に入所しているレイモンドです。レイモンドは、自分の記憶から消えていた実の兄でした。

チャーリーは財産欲しさにレイモンドを施設から連れ出し、恋人のスザンナと三人で旅に出ます。そこから名優ダスティン・ホフマンの演技が始まります。レイモンドの動作はどこか、ぎこちなく感じられます。チャーリーと話す時も、スザンナと話す時も視線が合いません。言葉が単調で抑揚がなく、表情には

感情が表れていません。普通、私どもは相手の表情や反応をみながら、言葉を選んで話します。これが対人関係を築く上での基本です。レイモンドにはそれがありません。ですから、コミュニケーションがよく取れません。レイモンドは思い通りに行かないと奇声をあげ、また、物事への異常な執着を示します。これも自閉症の特徴です。

レイモンドは立ち寄ったラスベガスのカジノで驚異的な記憶力を発揮し、チャーリーが大儲けするシーンがあります。精神や知能に重度の障害があるのに、それとは極めて対照的に、非常に優れた特殊な才能が同居している状態をサバン症候群と言います。サバンの語源はフランス語で、碩学とか学者と言う意味です。モーツァルトや山下清もサバン症候群だったのではないかと、とされています。

レイモンドと旅するうちに、子どもの頃の記憶がチャーリーの脳裏に蘇ってきます。辛かった子ども時代、唯一の救いであった「レインマン」がレイモンドであったことを知ります。「レイモンド」と発音できずに、「レインマン」と呼んでいたものでした。

アスペルガー症候群は自閉症とほぼ同じです。上述の第2の兆候、すなわち、言葉の発達の遅れがありません。ですから、それとは気づかれずに成長し、成人してから周囲との軋轢に悩むことが稀ではありません。アスペルガー症候群の人たちは、一旦覚えた仕事にこだわります。また、人情の機微とか、細やかな配慮といったものが理解できません。これを「こころの理論」と言います。最近の研究から、アスペルガー症候群の人たちは、「こころの理論」の獲得がうまくいかないことが分かっています。

アスペルガー症候群の人は、一般には変わっている人とみられているかもしれませんが。例えば、ある技術者の場合ですが、彼は同僚とは仕事上の交流だけで、飲みに行くこともありません。会議があると、自分の意見を主張して譲らず、妥協することがありません。誰かが冗談を言うと、それを真に受けて、真剣に反論します。離婚歴があります。奥さんの方から離婚を申しでたそうですが、今もって離婚の理由が分からないそうです。再婚した奥さんは外国の方です。日本語が不自由なので、会話は余りありません。しかし、彼は気にしていません。彼はこの春、違う部署に配属されました。彼はこれを不満として幾度も上司にかけあいました。労働組合にも訴えました。新聞に投書したこともあります。周りは彼の行動が理解できませんでした。

最近、発達障害をもつ子どもが増えています。その理由はいくつもあります。もっとも支持されているのは診断技術が向上したから、というものです。環境が脳の発達に影響を与えているからだ、という意見もあります。しかし、私はこう考えます。「元々、人間には相手のことを考えない、自分勝手な面があり、遺伝子で規定されている。これまでは、人間関係の結びつきが強い社会だったので、その社会のもつ教育力がそれを正してきた。今、それがなくなって、矯正が効かなくなった」。それが今日の子どもの犯罪の根本にあると考えています。

ある新聞に、私のこの考えを載せたところ、読者から大変なお叱りを受けました。その理由がずっと分からずにいました。ところが、あるテレビの番組でその理由を知りました。「発達障害はこころの病ではなく、認知機能を司る脳の働きに問題があるだけなのです」と、専門家と思われる人がNHKで語っていたのです。こころが脳に宿ること、こころの病とは脳の病であること、また、どのようなこころの病でも認知の障害が起こること、といった精神医学の原則を無視して、都合よく解釈しているのです。

「発達障害者支援法案」の「第一章、総則」は次のように言います。「この法律は、発達障害者の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進のために発達障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要であることにかんがみ、発達障害を早期に発見し、発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援、発達障害者支援センターの指定等について定めることにより、発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする」。

つまり、早期発見と施設の整備です。浜松医大精神神経科は早期発見のための主要な研究施設として大きな成果をあげることが期待されています。ですが、正しい知識の普及も大事で、案外、こちらの方が難しいかもしれません。

## 「電子資料館システムの活用 その意義と問題点」

歴史学 講師 小山 聡子

電子資料館システムというのは、インターネット上で、さまざまな文献や資料を広く公開するシステムのことである。近年、人文科学の分野で、電子資料館システムが本格的に活用されるようになってきた。もはや、人文科学分野でも、パソコンをいじることができない研究者は研究上大きく取り残されてしまう時代となったのである。

さて、私が専門とする歴史学でも、電子資料館システムは盛んに活用されている。中でも便利なのが、東京大学史料編纂所データベースや、国文学研究資料館の電子資料館である。まず東京大学史料編纂所データベースでは、東京大学史料編纂所の所蔵史料名はもちろんのこと、所蔵されている史料の詳細データも調べることができる。また、東京大学史料編纂所データベースでは、古文書や古記録に記されている言葉を検索することができる。たとえば、平安時代から鎌倉時代にかけて「病」という言葉がいかなる古文書・古記録のどの箇所に出てくるかを調べたければ、検索をしてその一覧を見ることができる。これについては、国文学研究資料館の電子資料館も同様である。国文学研究資料館では、説話集や物語集、紀行集などの文学資料にでてくる言葉を、簡単に調べることができる。さらにこの電子資料館では、国文学研究資料館が実際に所蔵している原本を閲覧することもできるのである。

10年ほど前には、電子資料館システムは現在ほどには充実しておらず、研究を進める上での苦労も多かった。たとえば私は以前、赤い姿をした童子への信仰について調べていたことがあり、「赤童子」というたった1つの言葉を見つけるために膨大な史料を片っ端から1枚1枚めくり続けていたことがある。そのときには、数週間の間、朝から晩まで図書館に缶詰になっていた。膨大な史料をめくった結果、赤童子についての記述が見つければいい。しかし、不幸なことに1つも見つからない場合もあるのである。その場合は、まさしく「骨折り損のくたびれもうけ」ということになる。10年前は、このようなことは日常茶飯事であった。ご苦労様である。急速な情報化社会到来によって、電子資料館システムも充実し、研究もやりやすくなってきたのである。

ただし、電子資料館システムが充実したことによってメリットもあるが、デメリットも生じている。それは多くの研究者が、図書館に足を運んで史料をめくる労力を惜しみ、電子資料館システムに頼りすぎたことにより、史料そのものを読まなくなってきた点である。どういうことかという、必要な単語は、電子資料館システムによって、どの史料のどの箇所に出てくるか、簡単に調べられる。それによって、史料全体を読むことをしなくなってしまったのである。電子資料館システムが充実する以前には、1枚1枚史料をめくり、たとえ探していた言葉が見つからなくても、史料を見ているうちに新たな発見があるということも多々あった。つまりこの方法は、一見無駄のように見えても無駄ではない一面も確かにあったのである。

このように、電子資料館システムが充実してきたおかげで、格段に便利になったこともあるが、その一方でそれによる弊害も多くある。研究者がインターネットによって得られる情報とどのように向き合うかが、これからの課題となるであろう。このような問題は、歴史学のみではなく、様々な分野に共通することではないだろうか。

## 今すぐ役立つサイトをご紹介します

下記のサイトは図書館ホームページ <http://www.lib.hama-med.ac.jp/> からでもリンクしています。

### NII 学術コンテンツ・ポータル GeNii (ジーニィ)

<http://ge.nii.ac.jp/>

国立情報学研究所 (NII) が提供する様々なサービスのコンテンツを統合したもので、学会誌、研究紀要論文 (一部はフルテキスト可) や引用文献情報、科学研究費補助金成果などを検索できます。

### 文献検索

学術サーチエンジン「Google Scholar」グーグル・スカラー

<http://scholar.google.com/>

グーグルはおなじみの検索エンジンですが、そのなかでもグーグル・スカラーはgoogleの学術文献専用の検索エンジンです。キーワードを入力すると直接Pubmedや無料の電子ジャーナルにリンクされているので、検索結果の論文の抄録等や無料で公開されている論文はそのままフルテキストで見ることができます。Citationの数字で重要度のランキングも示しており、クリックすると引用されている文献が出てきます。

### 診療ガイドライン

日本医療機能評価機構「Minds」

<http://minds.jcqhc.or.jp/to/index.aspx>

医療技術評価総合研究医療情報サービス事業 (通称 Minds) は、日本医療機能評価機構が実施する医療情報サービスです。医療情報サービス (Minds) で提供する診療ガイドラインおよび関連文献は、科学的根拠に基づき専門家により作成されたもので、臨床の現場においてガイドラインを判断材料として利用することができます。

### 電子ジャーナル

2005年1月より Cell Press の雑誌が1996年以降で発行後12ヶ月以上すぎたものは無料でフルテキストをみることができるようになりました。

<http://www.cell.com/> または <http://www.sciencedirect.com> からアクセスしてください。

### オープンアクセス

現在公開されている電子ジャーナルのオープンアクセスです。図書館で提供している電子ジャーナル以外の雑誌が下記のサイトから無料で見ることができます。図書館ホームページ電子ジャーナルのなかの「その他」の項目からもリンクされています。

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1. Public Library of Science (PLOS)   | <a href="http://www.publiclibraryofscience.org/">http://www.publiclibraryofscience.org/</a>                                       |
| 2. Directory of Open Access Journals  | <a href="http://www.doaj.org/">http://www.doaj.org/</a>   |
| 3. Virtual Med Online Journal Central | <a href="http://www.virtualmedonline.com/journalcentral/index.html">http://www.virtualmedonline.com/journalcentral/index.html</a> |
| 4. Free Medical Journal               | <a href="http://www.freemedicaljournals.com/">http://www.freemedicaljournals.com/</a>   |

上記のほかにも図書館のホームページからはいろいろな情報先とリンクしていますので、情報検索のツールとしてご利用ください。



## 2005 年新規購入・中止雑誌等のお知らせ

### ・新規購入

#### [ 外国雑誌 ]

- British journal of dermatology ( 図書館 )
- Clinical chemistry and laboratory medicine ( 図書館 )
- Current opinion in nephrology and hypertension ( 図書館 )
- Diseases of the colon and rectum ( 図書館 )
- Genesis ( 図書館 )
- International journal of cancer ( 外科学第一 )
- Journal for Specialists in Pediatric Nursing ( 図書館 )
- Journal of clinical oncology ( 図書館 )
- Journal of gerontological nursing ( 図書館 )
- Journal of medicinal chemistry ( 図書館 )
- Journal of oral and maxillofacial surgery ( 図書館 )
- Journal of pediatric surgery ( 図書館 )
- Journal of separation science ( 図書館 )
- Journal of the American Geriatrics Society ( 図書館 )
- Lasers in surgery and medicine ( 図書館 )
- Macromolecules ( 図書館 )
- Mammalian genome ( 図書館 )
- Midwifery ( 図書館 )
- Nephrology, dialysis, transplantation ( 図書館 )
- Oncology nursing forum ( 図書館 )
- Pediatric nursing ( 図書館 )
- Proceedings. Biological sciences ( 図書館 )

#### [ 国内雑誌 ]

- ER マガジン ( 救急部 )
- Japanese journal of clinical oncology ( 泌尿器科学 )

### ・購読中止

#### [ 外国雑誌 ]

- Acta oto-laryngologica ( 図書館 )
- Advances in enzymology and related areas of molecular biology ( 図書館 )
- Archives of orthopaedic and trauma surgery ( 図書館 )
- BioTechniques ( 病理学第一 )
- Cardiovascular and interventional radiology ( 図書館 )
- Comparative medicine ( 図書館 )
- Current advances in clinical chemistry ( 図書館 )
- Development ( 病理学第一 )
- European journal of pharmacology ( 図書館 )
- Hearing research ( 耳鼻咽喉科学 )
- Histopathology ( 病理学第一 )
- IEEE engineering in medicine and biology magazine ( 材料部・コメディカル )
- Journal of affective disorders ( 精神神経医学 )

Journal of clinical psychopharmacology (精神神経医学)  
 Journal of cranio-maxillo-facial surgery (図書館)  
 Journal of English linguistics (図書館)  
 Journal of functional analysis (数学)  
 Journal of health and social behavior (社会学)  
 Journal of helminthology (図書館)  
 Journal of nuclear medicine technology (放射線部・コメディカル)  
 Journal of nursing care quality (基礎看護・基礎看護)  
 Journal of psychiatric research (精神神経医学)  
 Journal of school health (公衆衛生学)  
 Journal of the American Psychiatric Nurses Association (図書館)  
 Language in society (図書館)  
 MCN (図書館)  
 Medical anthropology (社会学)  
 Molecular psychiatry (精神神経医学)  
 Nature reviews cancer (病理学第一)  
 Neuroimage (精神神経医学)  
 Neuropsychopharmacology (精神神経医学)  
 Nursing science quarterly (基礎看護・基礎看護)  
 Oral surgery, oral medicine, oral pathology, oral radiology, and endodontics (図書館)  
 Psychiatric news (臨床看護・精神看護)  
 Psychological medicine (精神神経医学)  
 Psychopharmacology (精神神経医学)  
 Schizophrenia research (精神神経医学)  
 Seminars in hematology (検査部・コメディカル)  
 The American journal of surgical pathology (病理学第一)  
 The Annals of probability (図書館)  
 The Diabetes educator (図書館)  
 Transplantation (解剖学第二)  
 Trends in cell biology (病理学第一)  
 Urological research (図書館)  
 World health statistics annual (図書館)

[ 国内雑誌 ]

Clinical calcium (衛生学)  
 Diabetes frontier (衛生学)  
 Interface (図書館)  
 Quality nursing (基礎看護・基礎助手)  
 The Bone (衛生学)  
 The Lipid (衛生学)  
 Tropical medicine and health (図書館)  
 コミュニティケア (医療社会事業部・コメディカル)  
 ソーシャルワーク研究 (医療社会事業部・コメディカル)  
 プラクティス (衛生学)  
 科学技術文献速報. 環境公害編 (基礎看護・環境科学)  
 科学史研究. 第II期 (図書館)

結核（図書館）  
 血圧（衛生学）  
 月刊介護保険（医療社会事業部・コメディカル）  
 月刊日本語（日本語・日本事情）  
 健康管理（公衆衛生学）  
 公衆衛生情報（公衆衛生学）  
 公衆衛生（公衆衛生学）  
 厚生（図書館）  
 厚生の指標（公衆衛生学）  
 史学雑誌（図書館）  
 社会福祉研究（医療社会事業部・コメディカル）  
 社会保険旬報（図書館）  
 週刊社会保障（図書館）  
 心理学評論（図書館）  
 生物物理（図書館）  
 哲学（図書館）  
 日本ハンセン病学会雑誌（図書館）  
 日本医史学雑誌（図書館）  
 日本医真菌学会雑誌（図書館）  
 日本語ジャーナル（日本語・日本事情）  
 別冊整形外科（整形外科学）  
 保健の科学（公衆衛生学）  
 保健物理（図書館）  
 民族衛生（図書館）  
 臨床栄養（衛生学）  
 労働の科学（衛生学）  
 労働の科学（公衆衛生学）  
 労働科学（公衆衛生学）  
 衛生動物（図書館）

**・誌名変更**

[ 外国雑誌 ]

The FEBS journal Vol.272（2005年）から（図書館）  
 Formerly: EJB

[ 国内雑誌 ]

Emergency care 18 巻（2005年）から（図書館、看護部）  
 Formerly: Emergency nursing  
 緩和ケア 15 巻（2005年）から（図書館、看護部）  
 Formerly: ターミナルケア

**・所在変更**

[ 外国雑誌 ]

Anesthesia and analgesia（麻酔・蘇生学 図書館）  
 Biological psychiatry（精神神経医学 図書館）  
 Issues in comprehensive pediatric nursing（臨床看護・小児看護 図書館）

# 講演会報告「医学図書館の地域貢献～病院図書室ネットワークを中心に～」

平成16年12月9日、大分大学附属図書館医学分館において、「医学図書館の地域貢献」をテーマに九州地区医学図書館員セミナーが開催されました。本学図書館から情報サービス係長が出席し、三角大分大学附属図書館医学分館長の基調講演「存在の認識と発想の転換による21世紀型医学図書館の創造」の後、「医学図書館の地域貢献～病院図書室ネットワークを中心に～」と題した招待講演を行いました。

近年、各大学では積極的に地域貢献を行うべくサービスを始めていますが、浜松医科大学での地域へのサービスは、昭和55年にまで遡ります。以来今日までの20数年間、県内の病院図書室等と協力し、医療従事者へ情報を提供しています。これらの活動を報告する機会を得たことは、大学図書館の役割を再認識するとともに、今後の活動を検討する上で、意義あるものとなりました。20数年の時を経て、活動は安定してきましたが、まだまだ課題も残されています。今回のセミナー基調講演の中で「既成概念を除去し、発想の転換をいかに行うか」「情熱と意識改革、そしてタブーへ挑戦」とのお話がありましたが、法人化を機に、地域ネットワークの中で情報センターとしての機能を充実し、核となって支援・協力ができるよう、新たな発想を持って、これからも研鑽していきたいと思っています。（情報サービス係）

## 平成17年度浜松医科大学附属図書館開館予定日

■ は閉館日 土曜日 13:00-17:00 日曜日 9:00-13:00

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30		

  

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6					1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
31																				

  

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5					1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31
30	31																			

  

1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28					26	27	28	29	30	31	